



(1) 文京区 NPO 活動 PR フェア参加

文京シビックセンターで9月27日(日)11:00~15:30に開催されたNPO活動PRフェアには、当法人も含め文京区を拠点として活動している25のNPO法人が参加しました。会場は、「社会の今がわかるコーナー」、「文京の今がわかるコーナー」、「体験コーナー」の3つに大別され、当法人は「社会の今がわかるコーナー」に出展しました。

隣の東京ドームではセリーグの首位争いをしている「ヤクルト対巨人戦」が開催され、人の流れはそちらの方に向かっており、会場来訪者は少ないのではと懸念しましたが、約400名の方が来場いただき、各展示コーナーをご覧になっていました。当法人コーナーにいらした方々のご関心は、やはりネパール大地震の被害状況なのですが、朝のうちは被害写真の展示が間に合わず、残念そうに立ち去られた方もおりました。しかし、午後にはプレゼンテーションの時間が設けられ、当法人も「ネパール大地震からの復興支援」というテーマで、宇野理事長が数枚の被害写真をご覧いただきながら、活動説明を行いました。午前中の展示コーナーへの写真手配が遅れたのはかえすがえす残念でした。

当法人コーナーを訪れた他のNPO法人関係者の多くの方から、「食卓の貯金箱」運動は、大変素晴らしい活動ですねとお声を寄せていただき、説明に当たった理事たちはなんか誇らしい気持ちになるとともに、募金活動の輪を更に大きくしていかなければとの思いを強くしました。



(2) 東日本大震災被災地支援先からのお礼状

東日本大震災被災地支援の第1号支援先である任意団体「蓬萊町まもうさぎ」(代表:黒沢祥子さん)より、9月14日付けでお礼状と写真が届きましたので、以下ご紹介申し上げます。



蜜蝋キャンドル作り

拝啓 初秋の候、皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、去る9月5日に予めより企画いたしておりました、「親子蜂蜜の森バスツアー」が、御NPOのあたたかい基金のお力添えのもと、無事催されましたことをご報告いたします。

貸切り大型バスに32名が同乗し、秋の清々しい一日を山形県

朝日町の森で伸び伸びと過ごすことができました。

ハカ月の乳児をはじめ三世代の親子がリフレッシュできましたことに感謝申し上げます。

簡単ではございますが、別紙写真(※)にて当日の様子をお知らせいたします。

末筆ながら、ご自愛のほどお祈り申し上げます。

敬具



※編集注：別紙2枚は、写真コピー15枚からなっており、森や蜂の生態、蜜蝋キャンドルの作り方などについて学んでいる様子や実際にキャンドルを作っている様子が窺えます。写真撮影は、渡部幸一さんご担当。

(3) 「食卓の貯金箱」運動の始まり

当法人が現在展開している「食卓の貯金箱」募金活動は、1950年代にオランダのNGO、NOVIBによって始められ、1981年に任意団体「世界の子どもと手をつなぐ会」（略称JOFIC）によって日本に導入されました。JOFICの元代表を務められていた坂田喜子さんから、立ち上げの経緯やご苦労話をお聞きすることができました。

坂田さんは中国・大連生まれ。7歳の時に日本に帰国し引き揚げ時の難民体験を原点に、結婚後子育てをしながら、「フォトアピール『難民—国境の愛と死—』（酒井淑夫著）や「マザーテレサと姉妹たち」（沖守宏著）を個別訪問しながら販売して、その収益を慈善団体に寄附していた。しかし、この単独での国際協力に限界を感じていた時に、NOVIBの「食卓の貯金箱」運動を紹介する毎日新聞の記事（1980年7月3日付け）に出会い、すぐに記者と連絡をとり、故室靖東和大学国際教育研究所教授を紹介され、実物の貯金箱を目にすることができた。この運動をぜひ日本でも広めたいとの思いでNOVIBに手紙を書き、貯金箱1000シートを送ってもらうことになった。同じ志をもっていた二人の友人と共に1981年7月に主婦を中心とした「世界の子どもと手をつなぐ会」を発足、運動をスタート。

最初は、資金もないため三人で2万円ずつ出し合い、チラシ作りや機関紙「JOFIC通信」を発行し、口コミなどを通じて賛同者に貯金箱を配布。そのことが、8月17日の毎日新聞に取り上げられ、全国150名の方から反響、問い合わせがあった。最初の募金で100万円が集まり、その時の運営委員の間では、この基金をもとに財団法人結成をという意見もあったが、主婦を中心とした活動には相応しくないとの坂田さんの考えで、すでに30年の活動歴のあるNOVIBを通じて国際支援を行うこととなった。

数年後、NOVIBの事務局長から日本で集めた貯金箱基金はJOFIC独自の支援活動に活用することを勧められたのを機に、日本のNGOを通じて、インド、バングラディッシュ、タイ、ネパール、フィリピン、ボリビア、ペルーなどの国の子どもたちへの食糧、教育、医療支援を継続して行うようになった。

NOVIBの「食卓の貯金箱」運動に関心をもったのは一過性の支援金を集めるためだけの運動ではなく、食卓の上に可愛い貯金箱を置き、世界の現状—南北の経済格差、水や食糧、難民、環境問題など—について親子で会話する。そこで自分と世界との関わりや、自分の生き方をめぐる価値観を変えていく教育活動の一環である、と坂田さんは言われました。

坂田さんからお聞きした「食卓の貯金箱」運動の意義は、今の世界、日本がおかれた状況の中でますます高まっているのではないかと思います。「貯金箱」をもっと全国に広めたいとの坂田さんの願いを、当法人がしっかりと受け止め、会員の皆様のご協力を仰ぎながら、実現していかなければと思っています

≪編集後記≫2007年に王制から共和制に移行したネパールは、新たな憲法を制定出来ない状態が続いていましたが、ようやく7州からなる連邦共和制国家の新憲法が制定され、9月20日に公布されました。しかし、タライ平原のマデシ、タルーなどの民族の権利が認められていないとして、反政府・反憲法闘争（ゼネストーバンド）がタライの平定を求めているインドの後ろ盾もあって激化しています。その影響で、タライの学校2万校の3百万の生徒の授業が停止され、インドによるガソリンなどのネパールへの輸送規制で国内の燃料不足が深刻になるなど、地震後の市民生活の一層の不安定化、復興作業の大幅な遅延化が懸念されています。（編集担当：KT）

灯も秋と思ひ入る夜の竹のかけ 臼田亜浪

認定NPO法人 いきいきフォーラム草の根支援

〒113-0023 東京都文京区向丘1-7-8 コミュニティ・スペースほのぼの内

TEL/FAX 03-3816-5346 E-Mail f-kusanone@tcn-catv.ne.jp

<http://www1.tcn-catv.ne.jp/ikiki-kusanone>